

食品安全委員会農薬第一専門調査会

第6回会合議事録

1. 日時 令和3年9月13日（月） 14:00～14:47

2. 場所 食品安全委員会 中会議室（Web会議システムを利用）

3. 議事

- (1) 「残留農薬の食品影響評価における公表文献の取扱いについて」の改正について
- (2) その他

4. 出席者

（専門委員）

小野座長、美谷島座長代理、赤池専門委員、小澤専門委員、
栗形専門委員、清家専門委員、中島専門委員、本間専門委員、松本専門委員

（専門参考人）

井上専門参考人、祖父江専門参考人、堀本専門参考人、與語専門参考人
義澤専門参考人

（食品安全委員会）

山本委員長、浅野委員、脇委員

（農林水産省）

小林農薬対策室長、松井審査官

（事務局）

鋤柄事務局長、中事務局次長、近藤評価第一課長、井上評価情報分析官、
高山評価調整官、栗山課長補佐、横山課長補佐、糸井専門官、中井専門官、
藤井専門官、原田係長、高橋専門職、町野専門職、宮木係員

5. 配布資料

資料1 残留農薬の食品健康影響評価における公表文献の取扱いについて（一部
改正案）

参考資料 海外評価機関における疫学研究結果の取扱いに関する情報（農薬関連）
について（令和3年3月18日第4回農薬第一専門調査会資料）

机上配布資料 疫学研究結果の整理例（非公表）

6. 議事内容

○栗山課長補佐

それでは、定刻となりましたので、ただいまから第6回農薬第一専門調査会を開催いたします。

先生方には、お忙しい中御出席いただきまして、ありがとうございます。

開催通知等で御連絡いたしましたように、本日の会議につきましては、新型コロナウイルス感染症のまん延の防止のため、Web会議システムを利用して参加いただく形で行います。

なお、このような事情から、本日は傍聴者を入れずに開催することとし、本会議の様子をYouTubeによりライブ配信をすることにより、公開に代えさせていただければと存じます。

また、内閣府においては5月1日よりクールビズを実施しておりますので、御理解・御協力のほど、よろしくお願いいたします。

本日は、農薬第一専門調査会の専門委員9名、専門参考人5名に御出席いただいております。また、食品安全委員会から2名の委員が出席しております。

本日は、農林水産省農産安全管理課より、小林農薬対策室長及び松井審査官が参加しております。

それでは、以後の進行を小野座長にお願いしたいと思います。

○小野座長

それでは、議事次第に沿って議事を進めたいと思います。

開催通知等で御連絡いたしましたように、本日の会議につきましては公開で行いますので、よろしくお願いいたします。

まず、資料の確認を事務局からお願いいたします。

○栗山課長補佐

それでは、本日の資料の確認をお願いいたします。

本日の資料は議事次第、農薬第一専門調査会専門委員等名簿のほか、資料1として「残留農薬の食品健康影響評価における公表文献の取扱いについて（一部改正案）」、

参考資料として「海外評価機関における疫学研究結果の取扱いに関する情報（農薬関連）について（令和3年3月18日第4回農薬第一専門調査会資料）」、

机上配布資料としまして「疫学研究結果の整理例（非公表）」でございます。

不足等がございましたら、事務局までお申しつけください。机上配布資料以外の資料はホームページにも掲載されております。

なお、本日はWeb会議形式で行いますので、そちらの注意事項を3点お知らせします。

1つ目ですが、こちらは常時の内容となりますが、カメラは基本的にオンにさせていただきますようお願いいたします。また、マイクは発言者の音質向上のため、発言しないときは

オフにさせていただくようにお願いします。

2つ目、こちらは発言時の内容となりますが、御発言いただく際は、まず、お手元の意思表示カードの挙手と記載されたほうをカメラに向けてください。万が一、映像機能が途中で機能しなくなるなどの障害がございましたら、挙手機能を使用して挙手していただきます。なお、途中で挙手機能及び映像機能が機能しなくなった場合は、一度退室していただき、再度入室を試みていただきますようお願いいたします。

次に、事務局又は座長が先生のお名前をお呼びしましたら、マイクをオンにして冒頭にお名前を発言していただいた上で御発言を開始していただき、発言の最後には、以上です、と御発言いただいてマイクをオフとする形で御対応をお願いします。

3つ目、こちらは接続不良時の内容となりますが、会議中、通信環境により音声途切れて聞き取り状況にくい状況になってしまった場合、カメラ表示を切ることで比較的安定した通信が可能となる場合がございます。画面下のカメラのボタンをクリックいただくと、オン・オフの切り換えができます。それでも状況が変わらず、議論内容が分からない状況が続くようでしたら、お手数ですがチャット機能を使用して状況を御連絡ください。予期せず切断されてしまった場合には、再度入室をお試しいただくようお願いいたします。

以上、Web会議における注意事項となります。よろしくお願いたします。

○小野座長

続きまして、事務局から食品安全委員会における調査審議方法等について、平成15年10月2日食品安全委員会決定に基づき必要となる専門委員の調査審議等への参加に関する事項について報告を行ってください。

○栗山課長補佐

それでは、本日の議事に関する専門委員の調査審議等の参加に関する事項について御報告いたします。

本日の議事について、専門委員の先生方から御提出いただいた確認書を確認したところ、平成15年10月2日委員会決定に規定する調査審議等に参加しないこととなる事由に該当する専門委員はいらっしゃいません。

○小野座長

先生方、提出いただいた確認書について相違はございませんでしょうか。

(委員首肯)

○小野座長

ありがとうございます。

それでは、議事1、残留農薬の食品健康影響評価における公表文献の取扱いについての改正についてを始めたいと思います。

事務局から説明をお願いいたします。

○栗山課長補佐

それでは、資料1及び参考資料について御説明させていただきます。

資料1をお開きください。まず、3月の農薬第一専門調査会で決定されました残留農薬の食品健康影響評価における公表文献の取扱いについては、疫学研究以外の毒性試験の公表文献につきましては、各公表文献の研究内容等を整理したリストを提出する様式を別添様式例として添付していました。

今般、疫学研究の公表文献につきましても、別紙疫学研究結果の取扱いについてで、リスク管理機関は各疫学研究の概要等について整理したリストを提出することとされていることから、疫学を御専門とされる祖父江先生と井上先生に御相談させていただきつつ、事務局のほうで様式例の案を作成いたしました。

本日は、この様式例の追加に関する本文書の改正案について御審議をお願いいたします。

まず、本文につきましては基本的には変更しておりません。

様式例が追加されて複数になることから、本文2ページの5行目の最後の部分です。既存の様式例を引用している部分について、様式例1と番号を追加しております。

それから、9ページの別紙につきまして、疫学研究の様式例を引用する部分を2の(1)の最後のところに、リストを提出するものとする(別添様式例2-1及び2-2参照)として、追記しています。

それでは、資料1の別添様式例の2を御覧ください。疫学研究以外の公表文献に比べますと必要となる情報が多くなると考えられたことから、疫学研究に関するものにつきましては2枚の構成としていまして、文献の基本情報については1の文献情報のシート、疫学研究結果に関するものは次の2の研究結果詳細の別のシートとして分けて作成しております。

1枚目の文献情報については、既存の疫学研究以外の様式例の前半部分と同様の項目としておりまして、左側から順にNo、文献名、ジャーナル名等、公表年、著者名、著者の所属機関、書誌情報、原著/reviewの別、海外評価書での引用の有無、ドシエでの引用の有無、それから、備考欄としております。

この中で、書誌情報につきましては、既存の疫学研究以外の様式例にはなかった項目でございますが、先生方が実際に評価される際に速やかに文献情報へアクセスできるように、DOIやPubMed IDなどの電子ジャーナルへのリンクや当該文献を特定できる情報を記載する欄として、ぜひこれはあったほうがよいということで新たに追加したものです。こちらにつきましては、既存の疫学研究以外の様式例のほうにもあったほうがよいという御意見もいただきましたので、別添様式例1のほうにも追加する案とさせていただいております。

それから、別添様式例2の2枚目の研究結果詳細のほうのシートでございます。こちらにつきましては、検討に当たりまして、ケーススタディーを行っております。3月の農薬第一専門調査会でも参考としまして、本日参考資料としてもお配りしております海外評価

機関における疫学研究結果の取扱いに関する情報について、こちらの7ページのほうで、JMPRで評価事例の一つとして挙げておりましたグリホサートで使用された公表文献などから10項を用いまして、本日の机上配布資料にありますように、疫学研究結果の整理例として作成しております。

こちらの資料を基にしまして、今日の資料1の別添様式例2の2枚目のシートとしまして、研究結果詳細の様式例を作成しております。

項目を順番に御紹介しますと、左側から、まずNo、著者名、それから、研究デザインとしまして、国名、試験設計、調査時期、対象者年齢、アウトカムの定義、アウトカムの確認方法、ばく露指標の定義、ばく露の確認方法、それから、右側に健康関連の事象の情報として、試験全体のN数、アウトカムのN数、分析カテゴリー、ばく露に係るN数、相対リスク/オッズ比等、95%信頼区間、p値、交絡因子の考慮、最後に備考としてございます。

こちらにつきまして、事前に先生方からコメントをいただいているところですが、別添様式例2の1枚目にお戻りいただきまして、下半分のボックスにございます。

與語専門参考人から御意見をいただいております。まず、文献情報につきまして1ポツ目、こちらは書誌情報が追加されたことで、検討対象の公表論文が確定できるのでよいと思います。そのような条件下でも、例えば著者名は全員記載するのでしょうかといただいております。こちらは既存の別添様式例1を作成する際に、例えばその論文に関係しているか、リストの中でも見られたほうがよいという御意見があつて、記載していたという経緯がございます。

今回、疫学研究についての様式例を検討するに当たっては、疫学研究の場合、著者数が多い場合があるということで、そういった場合、第1、第2及び責任著者が少なくとも記載されていれば、ほかは省略してもよいのではないかと御意見もありましたので、今回、このシートの記載上の留意点の2つ目のところに記載をしております。

それから、2ポツ目の著者の所属機関が複数の機関の連名だとかなりのスペースが必要ですが、フルネームかつどの著者の所属機関か分かるように記載するのでしょうかとあります。この点、既存の様式例1ではそのとおりでして、一方、疫学研究の様式例2では、著者名が3名程度に省略して記載するという場合には、所属機関もそれに対応したものを順に記載するというのでよろしいのではないかと考えてございます。

それから、3ポツ目の成書の場合もその内容が書かれているページ範囲を示すことでよいのでしょうかという点についてですが、こちらについては、まさにそのとおりなのかなと存じております。

4ポツ目、公表年は早期公開があれば、それに合わせるのでしょうか。それとも出版年でしょうか。昨今、電子ジャーナルだけの科学雑誌もあるので、公表文献として取り上げる条件に関する念のための確認ですといただいております。こちらにつきましては、いつ頃実施されたものかというのがある程度把握できれば、この欄についてはよろしいのかなと思われまますので、まず、早期公開も含めまして、初めに公表された公表年を書くこと

を原則として、出版年が入っていても、それは許容するという事としてはどうかと御提案させていただきます。

それから、5ポツ目の項目の原著/reviewとしているのは、ここにおけるreviewが総説とは異なる意味があるためでしょうか。具体的には本文の3ページの脚注にある総説や成書の定義が関係するのでしょうかといただきました。この点につきましては、既存の文書の中で本文と様式のほうで記載ぶりがちょっとずれているといったところがございますので、今回を機に様式例1と様式例2の両方について、様式のローマ字で記載されているreviewの部分は総説と書き換えることとしてはどうかと考えております。

それから、次の2の文献詳細についての1ポツ目です。ここにおけるアウトカムは毒性指標のことでしょうか。隣にばく露指標があったので、念のための確認ですといただいております。この点につきまして、疫学研究ではアウトカムの部分には基本的には疾患名などが入るものかと思えます。

それから、2ポツ目の同じ文献内でもアウトカムとばく露指標の組み合わせごとに別の行にするということですねという点につきましては、記載例にもありますとおり、そのとおりでございます。

それから、3ポツ目、アウトカムのみでばく露がない事例を紹介されていませんでしたが、疫学研究に限ったことと理解してよいでしょうかといただいているところにつきましては、通常、疫学研究はばく露とアウトカムの因果関係を研究するというものでありますので、これらが基本的にはセットで入ってくるということになりまして、今回、資料提出の際にバイオモニタリング調査のようなものが含まれる場合にも同じ様式に整理できたらよいのではないかとということで、そういったものについては様式例2-2の記載上の留意点の3番目にございますように、バイオモニタリング調査の場合は、調査の対象項目をばく露指標の定義の欄に、当該項目の分析方法をばく露の確認方法の欄に記載することと整理をしています。

先ほどのボックスのところに戻りまして、最後の御意見のところ、共通事項として、1と2の項目にあるNo.は同一の文献では同じ番号としたほうがよいと思えますといただいております。これはまさにそのとおりということで考えておりまして、それが明示できますように記載例のほうにも、No.のところを例1、例2、例3という形で記載をさせていただいて反映しております。

最後に、事務局のほうから1点よろしいでしょうか。様式例2-2の研究結果詳細のシートの方なのですが、記載上の留意点の2ポツ目で、試験全体のN数について、前向き研究の場合とはいう記載があるのですが、こちらのほうは後ろ向き研究も含めてコホート研究の場合とはしたほうがよろしいかどうかという点につきまして、疫学の先生方へ御確認をお願いできればと思えます。

事務局からの説明、以上となります。

○小野座長

ありがとうございます。

先生方に御意見を聞く前に、與語先生のほうから何点かコメントをいただいておりますので、今、事務局からのコメントに対して説明がございましたら、與語先生、コメントについて説明等をいただけたらと思います。お願いします。

○與語専門参考人

私のほうからコメントしたことに対して、事務局のほうで非常に丁寧に説明してくださったので、私から何か追加することはないですし、また、事務局が考えられている対応で十分かと思っておりますので、それで結構だと思います。

以上です。

○小野座長

ありがとうございました。

それから、疫学のほうの様式例2-2、疫学の詳細が記載されているほうの下に留意点というものがございまして、留意点の3つ目、試験全体のN数について、今の配られている資料だと、前向き研究の場合は試験全体のN数をと記載されているのが、コホート研究の場合はとしたほうがよろしいのではないかというお話でしたが、この辺は祖父江先生、井上先生、コメントがございましたらお願いします。

○祖父江専門参考人

前向き研究と症例対照研究と並列になっていますけれども、これはあまり対応していません。させようと思えば、やはりコホート研究のほうがいいのですけれども、前向き研究だけなのか、横断研究というのがほかにもあるのです、クロスセクショナルスタディーというのが、大体コホートと似ているというか、全体の数が書けるので、コホート研究、横断研究の場合は、にしたらどうですか。

○小野座長

ありがとうございます。

井上先生はいかがでしょう。

○井上専門参考人

私もそれに賛成で、というのは、コホート研究の場合に、ここに該当するものとして、前向きのほかに後ろ向きというのも恐らく入ってくることがあって、そうすると、前向き研究だけにしてしまうとちょっとまずいというのと、あと、やはり横断研究、クロスセクショナルというもの、だから、ケースコントロールスタディーがちょっと違う。それ以外のもは、今、祖父江先生が言われましたようにコホート研究、若しくは横断研究、縦断研究でもいいのですかね。イメージが湧かないと、変なふうに分類されても困るので、これを読んで作業する人が分かるようにするには、やはりコホート研究、必要であれば（前向き、後ろ向き）、あと、横断研究というような形で記入しておけば大丈夫だと思うのです。

以上です。

○小野座長

ありがとうございます。

事務局、よろしいでしょうか。

○栗山課長補佐

それでは、その点、記載を整理させていただきたいと思います。

○小野座長

それ以外の部分で、今、事務局から説明いただいた本文のほうは、今回引用している別添資料の引用部分の記載修正だけなので特にコメントはないかと思うのですが、別添様式1、2の内容について、先生方で何かコメント等がございましたらお願いできますか。

僕から1点、與語先生の質問でちょっとあったのですけれども、著者名だとか所属機関を全部書くのかみたいな質問が與語先生のほうからあって、事務局からの回答として、様式例2のほうは議論したときに書誌情報を入れるということもあって、それであれば、著者が多い場合、全員記載しなくてもよいのではないかという形で整理をしています。

ただ、様式1のほうです。こちらは議論したのがそれより前だったこともあって、様式1のほうは省略せず全て記載するようという、下の留意点を書いてあるのですけれども、文献名、ジャーナル名はいいとして、著者名、所属機関については省略せず正確に記載すると書いてあるのです。これは多かった場合、どれぐらいと何とも言えないのですけれども、20人とかいるようなケースもあるので、そういう場合、書誌情報があれば、疫学のほうの様式2と同じで、そんなに全部記載しなくてもいいのではないかなという気がちょっとするのですけれども、様式2と1とルールを合わせるという意味もありますし、先生方、その辺はどうですか。やはり全部記載するべきだという御意見があるようであれば、今のままとしたいと思います。

僕が適当に当てていいですか。義澤先生、いかがでしょうか。

○義澤専門参考人

今、小野先生の言われたように全員、10人とか20人とかあるやつもあるかもしれませんので、様式2と合わせて第1、第2、それから、責任著者を記載すればいいのではないかなと思います。それと、書誌情報も記載するわけですね。当たろうと思えば書誌情報で当たれますので、小野先生の御提案でよろしいかと思いました。

以上です。

○小野座長

ほかに意見のある先生がいましたらお願いできますか

井上先生、お願いします。

○井上専門参考人

今の御意見で懸念すべき点とすれば、第1、第2、第3ぐらいまでだったら簡単に順番に上げてくればよいと思うのですけれども、責任著者の位置はいろいろありまして、結構拾ってくるのが大変になってしまうので、情報として欲しいのはよく理解できるのですけ

れども、作業する人によってはなかなか、それがかえって時間を使う理由になってしまったりもするので、例えば10人とかで済むのであれば、疫学以外の著者の数はあまりよく分からないのですけれども、3人ぐらいでも済むのであれば3人ぐらいで責任著者、あるいはラストオーサーの人が消えてしまっても、情報としてそんなに問題はないのであれば、3人ぐらいでとどめてしまおうとかしたほうが、作業する人にとっては楽だと思えるのですけれども、この名前を見て信頼できるかどうか決めるというニュアンスでしたら別かもしれないので、ほかの先生方の御意見も参考にしたいと思います。

以上です。

○小野座長

ありがとうございます。

先生方、いかがですかね。

毒性の文献で10人、20人いるというケースはなくはないけれども、そんなにあるケースでないと思うのです。だから、非常に限られたケースになるのかなという気がしていて、そうでなければ、4～5人だったら全部コピーして全部貼ってもらえばいい話で、限られた数の文献であればコレスポンドング・オーサーを拾っても、それほどの負担ではないのかなという気もしなくもないのですけれども、先生方、どうですか。

小澤先生、何か意見はございますか。

○小澤専門委員

基本的に書誌情報があるので、先ほど義澤先生がおっしゃった意見に私は一番近いです。もし責任者とかコレスポンドング・オーサーが欲しければ、場所としてそぐわないかもしれませんが、備考に入れておくということを申し合わせとして持っていれば、それでいいのではないかと思います。

以上です。

○小野座長

ありがとうございます。

○栗山課長補佐

事務局から1点よろしいでしょうか。

一応現在の様式の2のほうの案としましては、著者名については著者数が多い場合（例えば10名以上）は省略してもよいが、第1、第2及び責任著者は少なくとも記載することという案にしておりますので、最初から3名というよりはコレスポンドング・オーサーの部分は入るよという形で書いてほしいというような記載にさせていただきます。一応念のためお知らせします。

○小野座長

責任著者の部分は入るよとは、どういうことですか。

ラストオーサーとかになる場合があるので、責任著者まで拾うと全部拾ってしまいますけれども、そういう意味ではないですよ。

○栗山課長補佐

コレスポンドング・オーサーは一応入るよという意味で書いてあるのかなと理解しています。つまり、要するにあえて備考に書くとかというわけではなくて、著者名の欄に第1、第2及び責任著者というのは少なくとも書いてくださいという案になっているので。

○小野座長

仮に第1、第2と責任著者の3名を拾って書いたときに、ただ書いてあったらどの人が責任著者か分からないです。

○栗山課長補佐

そこら辺、詳細は書誌情報から飛んでいただくということになってしまうかもしれないのですけれども、順番まで規定すべきかということですね。

○小野座長

義澤先生、お願いします。

○義澤専門参考人

今、小野先生が言われたみたいに誰がコレスポンドング・オーサーか分からなかったら意味がないよね。第1から第2、第3までを記載しつつ、あと、必要な情報は書誌情報で探せばいいような気がします。よく論文の引用文献の書き方で3名まで記載、それ以下はet al.にするというのはよくある話だと思うのです。そのように単純にしたほうが、間違いがないような気がします。これは私の意見です。

以上です。

○小野座長

ありがとうございます。

責任著者が誰とかいうことにかかわらず、非常に人数が多い場合はトップ3人ぐらいを書いて、あとet al.という記載にしてもらっておくという意見だと思いました。

浅野先生、お願いします。

○浅野委員

ディスカッション、ありがとうございます。

結局、コレスポンドング・オーサーが必要かどうかということになると思うのですけれども、先生方がディスカッションされているように、書誌情報があれば必ずそこに当たれますので、とりあえずこの情報を見て再評価を考える際に、どうしてもコレスポンドング・オーサーが必要であれば書誌情報に戻ればいいと思いますので、コレスポンドング・オーサーを拾う場合には、やはりこの論文の連絡先というEメールアドレスか何かを探っていないといけないわけです。

今、ディスカッションを聞いていると、とりあえず、ファースト、セカンド。これは外さずに、ラストかサードか、どちらか一方を入れるということで、コレスポンドング・オーサーがどうしても必要ではないということであれば、ここで必須としなくてもいいの

かなと考えました。よろしく申し上げます。

○小野座長

ありがとうございます。

仮にコレスポnding・オーサーをわざわざチェックして拾ってくれという形にすると、全部コピペするほうが早かったりする場合もあるので、もう面倒くさいから全部コピペして貼っておきましょうみたいなことにもなりかねないので、最初の3人を入れておくという形にしてもらえばいいのではないのですか。あとはet al.でもっといるのだよということが分かるようにしておけば、仮に3人しか著者がいないという論文もあるわけで、それは3人でet al.がない形で出してもらって、もっといるのかどうか分からないと調子が悪いと思うので、という形ではどうかと思うのですけれども、先生方、いかがですか。

小林室長、お願いします。

○小林農薬対策室長

ちょうど著者のお話が出ていたので一つなのですけれども、ちなみにEUに出している書類、メーカーが今EUに出しているものをそのまま使うということで、できる限り省力化して、できるだけ早く進めていこうということでやっているのですが、EUに出すときはトップオーサーのみとなっております。実際問題として文献は本当にトップオーサーだけあれば、逆に言うと書誌情報等があれば、ほかの著者について調べるのは簡単なので、トップオーサーだけでもいいのではないかという判断なのだと考えています。ですので、業務的に見ますと、トップオーサーのみとなっていると、トップオーサー以外も書くとなると、そここのところの補完が必要になってくるので、何にしても手間がかかってしまうのかなと、時間も要してしまうのかなというのが1点。

もう一つ、そう言っておきながらという感じなのですけれども、書誌情報ですけれども、これは全ての論文に必ずあるものなのかどうか、そういう意味でいうと、随分昔に論文等から遠ざかってしまって時間がたっているのです、昔はそういうものはなかったような気がするのですが、全てがあるのかどうかというところが、ちょっと私もよく分かりません。なので、もちろんあるものについてということではいいのだとは思いますが、そういう整理でよろしいのでしょうか。要はあるものについては書きますが、もちろんそここのところで見ても、例えば文献に書いていないような場合には、書誌情報があるのかないのかも含めて調べるのも容易ではないところもありますので。

○小野座長

まず、著者のほうですが、今の説明だと、EUに出したものがあれば、それをなるべく流用するという形にしようとする、著者名はトップオーサーのみという形になっているという話でしたが、先生方、どうですか。資料を準備する効率を考えればトップオーサーのみという形、3人いなければいけないのか、トップオーサーのみでいいのかという話ですがどうでしょう。トップオーサーのみだと、もし不都合があるということであれば、ここで要求するというところもあると思いますし、その辺、先生方の御意見をいただけたらと思

うのですが、疫学のほうの文献はどうですか。仮にトップオーサーのみしか提供されていないという場合。

祖父江先生、どうぞ。

○祖父江専門参考人

疫学の論文が最近何か巨大化して、オーサーの数がいっぱい出てくる場合がかなりあるので、1人の名前と3人の名前でそんなに違うかということ、恐らくあまり変わらないと思います。2番目、3番目に出てくる人はそんなに重要でない人が多いので、ファーストオーサーでいいような気がします。

○小野座長

井上先生、お願いします。

○井上専門参考人

私も結論的にはファーストオーサーのみでいいのではないかと思います。というのは、別にこれでその人の業績を評価するわけではないので、この中身の評価をしないといけないので、あくまで最初の名前は論文のインデックスとして、最後まで何とかの論文というのが、恐らく有名な論文だと出てくるので、それと合うようなインデックスとして、最初の1人の名前を入れておけば十分だと思います。

もう一つは、最近よくあるのがダブルファーストオーサーとか、トリプルファーストオーサーとか、ダブルが結構出てきているのですけれども、それであっても別にその人の論文として評価するわけではなくて、中身を評価するためのものなので、その場合でも1人いれば十分、そっくりのタイトルの論文がときどきありまして、それを防止するためには著者の名前はインデックスとしては入れておいたほうがいいと思います。

以上です。

○小野座長

ありがとうございます。

毒性関係も状況というか、ほとんど同じだと思うのですが、先生方、どうでしょう。

赤池先生、お願いします。

○赤池専門委員

私も同じ意見なのですが、要するにこの表からどういう情報を取ってくるかということだろうと思うのです。基本的には、内容については元に当たらないといけないということで、この表から取れるわけではないと思いますので。そういう意味では論文のIDがしっかりしてればいいという意味では、1人でも3人でも基本的に同じなので、1人目、要するに一番左に書いてある方の名前が入っていればいいのかと考えました。

以上です。

○小野座長

ありがとうございます。

ほかの先生方はよろしいですか。

では、このリストに記載してもらった著者名はファーストオーサーということにしたいと思いますがよろしいでしょうか。

(委員首肯)

○小野座長

では、著者名についてそのような整理にしたいと思います。

もう1点、先ほど小林さんのほうから書誌情報が必ず全ての文献にあるのかという話でしたが、なければ記載しようがないので、ないものは記載いただく必要はないと思うのですが、最近の雑誌であれば、基本的にDOIがあると思いますし、PubMed IDのほうは雑誌のほうに記載がされていることはありません。これはPubMedに掲載されているものについてPubMedのほうでIDを振っているのので、こちらを記載する場合は、PubMedのほうで検索してもらったか、論文検索の段階でPMIDが入っているようなデータベースを使っていれば、そこで拾えると思うのですけれども、例えばすごく新しくPubMedに載っていないとかいう場合はもちろんIDはないですし、そういう意味でない場合というのが多分あると思います。だからDOIがあれば、そっちを入れてもらったほうが利便性はいいのかなという気はします。

小林さんはそのような説明でよろしいですか。

○小林農薬対策室長

ありがとうございます。

○小野座長

先生方、ほかに何か追加とかがあれば。

○栗山課長補佐

事務局から1点、先ほどの著者名のところはそうしますと、今、著者名と記載されている項目欄につきましては、筆頭著者名という欄にしまして、具体的な名前のところは1人の名前だけ書いて、2人以上か1人かという見分けは特にしないでet al.みたいな表現はなしということで、シンプルにそろえるということでもよろしかったでしょうか。

○小野座長

et al.はあったほうがいいのではないですか。毒性の関係で1人しか著者がいないというのなかなか想定しがたいというのは確かですけれども、レビュー自体などの場合はもしかしたら1人、単名で出している場合があるかもしれない気がします。

先生方、どうですか。et al.のところは書いてなくてもどうでもいいという感じですか。本間先生、お願いします。

○本間専門委員

論文には何人かいるのですから、et al.をつけるのは当たり前ではないですか。なぜそこで1人でいいという議論になるか分からない。

○小野座長

ありがとうございます。

ということで、何人かいる場合はet al.をつけておいてもらうという形をお願いします。ただ、本当にreviewとかでシングルネームで書いてあるようなものを拾った場合は、もちろんet al.なしで1人だというのが分かる形をお願いします。

○栗山課長補佐

蒸し返すようで申し訳ないのですが、そういう議論になるということだと、この欄は筆頭著者名とはせずに著者名のままのほうがよろしいのですか。

○小野座長

ままでいいのではないですか。

○栗山課長補佐

分かりました。大変失礼しました。

あと確認の点としまして、こちらについては別添様式例の1のほうも2のほうも共通として今のような取扱いとさせていただくことでよろしかったでしょうか。

○小野座長

いいと思います。様式は分かれていますけれども、K列ぐらいまでは共通なのですか。共通の部分は取扱い記載方法等を含めて共通ということにしたほうがよいかと思うので、今の議論は様式例1、2ともに共通に適用するということをお願いします。

○栗山課長補佐

承知いたしました。

○小野座長

それ以外の部分についてコメント等がございましたらお願いしたいのですが、いかがですか。それ以外の部分は、様式例1のほうは以前に何度か議論しているので、特にコメントはないのかもしれないですが、様式例2の特に詳細部分です。2-2の記載内容、項目とかはどうですか。

祖父江先生、井上先生、追加のコメント等はございますでしょうか。

○祖父江専門参考人

ここは整理されて、意見を言ったところも入れていただいているので、オーケーだと思います。

○小野座長

ありがとうございます。

井上先生、いかがでしょうか。

○井上専門参考人

同じで、かなり意見を申し上げたのをに入れていただいているので、これでいいかと思いますが、使ってみて欄が小さすぎるとかいう改善は必要かもしれませんが、コンテンツ的には問題ないと思います。

以上です。

○小野座長

ありがとうございます。

では、全体として追加でコメント等はよろしいですか。

特にないようであれば、本日の議論を基にした一部著者名等記載のルールと今のお配りしている資料と変わる部分を反映した形で最終化したいと思いますよろしいですか。

(委員首肯)

○小野座長

それでは、今後の進め方について、事務局より説明をお願いします。

○栗山課長補佐

それでは、本日御審議いただきましたこの文書につきましては、先ほどの議論を踏まえて事務局で修正を行いました後、座長一任という形で疫学の先生方にも確認いただきましてセットする方向で進めさせていただきまして、この改正後には、農薬第二から第五専門調査会のほうにも共有させていただきたいと存じます。

また、本文書につきましては、リスク管理機関のほうへ共有することとしまして、評価要請に当たっては本改正内容を踏まえた上で、リスク管理機関は公表文献とともにそのリストの提出を行っていただければと存じます。

座長、そういった形でよろしかったでしょうか。

○小野座長

そういった整理でよいと思います。

リスク管理機関のほうに関しましては、本日の改正内容も踏まえた上で、評価資料を提出いただければと思います。

事務局から、ほかに何かございますでしょうか。

○栗山課長補佐

特にございません。

○小野座長

それでは、こちらの議事については、これで終了としたいと思います。ありがとうございました。

続いて、その他の議事に移りたいと思います。

事務局からは何かございますでしょうか。

○栗山課長補佐

前回の調査会におきまして、令和3年度食品安全委員会運営計画の御紹介の際にお話ししましたセミナーの実施について御案内いたします。9月17日に農薬の再評価をテーマとする報道関係者との意見交換会がオンラインにて開催されます。

また、後日、同じ内容で一般の方を対象としました意見交換会の開催も予定しております。こちらにつきましては、日時等の詳細は食品安全委員会のホームページにてお知らせする予定でございます。

以上です。

○小野座長

ありがとうございました。

この件に関して、何か先生方から質問等はございますでしょうか。よろしいですか。

僕のほうで以前、委員の先生方にセミナーとかをやるという話の情報共有をお願いしますと事務局にお願いしたので、それで今、情報共有をいただいたものと思います。詳細はホームページのほうにということでしたので、そちらも御覧いただければと思います。

ありがとうございました。

事務局からほかに何かございますでしょうか。

○栗山課長補佐

次回の農薬第一専門調査会の予定につきましては、日程及び開催方式等を追って御連絡させていただきます。

以上です。

○小野座長

ありがとうございました。

ほかに先生方、若しくは事務局から何かございますでしょうか。

ございませんでしたら、以上をもちまして、第6回農薬第一専門調査会を閉会したいと思います。どうもありがとうございました。

以上